

伊勢市水道事業ビジョンの見直しについて

1 見直しの目的

伊勢市水道事業ビジョンは水道事業が抱える課題に対して中長期的な視点で対応するため、令和元年度から令和10年度までを計画期間とし、平成30年度に策定している。

今回、策定後5年を経過することからビジョンで定めたフォローアップによる検証及び今後の取組や財政収支等の見直しを行うものである。

2 現状の評価

ビジョンに位置付けた実現方策について、令和4年度までに実施した取組に基づき振り返りを行った。

戦略的業務指標による進捗状況

令和5年度中間目標に対し、

- ・達成見込みの項目 基幹管路の耐震化率、経常収支比率など4項目
- ・未達成見込みの項目 漏水率、管路の耐震化率など6項目

3 見直しの内容

計画の中間年での見直しであるため、ビジョンで定める計画期間及び経営方針を保持し、以下の見直しを行った。

(1) 主な取組事項

① 水道施設の最適化

五十鈴川水源地の更新、中須水源地の更新に伴う調査・設計や引き続き老朽管の更新を行う。また、令和5年3月に厚生労働省により改訂された「水道施設の点検を含む維持・修繕の実施に関するガイドライン」に基づき、水管橋を中心とした水道施設の点検・維持・修繕の強化を行う。

② 運営基盤の強化

令和4年度末に県が「水道広域化推進プラン」を策定したことから、プランに基づく広域連携の取組を行う。

③ 耐震化の推進

水源地等基幹施設の耐震化や基幹管路及び災害時重要給水施設等への配水管の優先的な耐震化を行う。

④ 応急対策の充実

災害発生後、直ちに応急復旧等の災害対応を行うため、ライフラインの復旧拠点となる上下水道部庁舎の整備を行う。

⑤ 災害対策の強化

近年の豪雨・土砂災害被害の教訓に基づき、水道施設等の耐水化・土砂災害対策に取り組む。また、災害時に水道管が破損した場合でも最小限の配水を確保するため、バイパス管の整備を行う。

(2) 財政収支計画

新たな水需要予測や資材価格及び電気料金等高騰への対応や、施設整備計画の見直し等に基づき、財政収支計画の見直しを行った。

○見直しによる影響の大きい項目（R6～10の5年間）（単位：百万円）

項目	見直し前	見直し後	比較
給水収益	10,628	10,597	▲31
委託費	1,124	1,357	233
維持管理費	520	918	398
受水費	2,810	2,922	112
建設改良費	7,180	8,712	1,532
企業債借入額	2,553	2,846	293
企業債残高(R10末)	6,314	6,495	181

見直し後の収益的収支において、令和9年度以降単年度欠損金の発生を見込んでいる。このため、毎年度今後の水需要や財政収支の動向を注視し、単年度欠損金の発生が見込まれる年度に料金改定の検討を行う。

(3) 戦略的業務指標

これまでの振り返りと水道法の改定や経済社会情勢等の変化を踏まえ、戦略的業務指標(R10)の見直しを行った。

○全10項目中、見直しを行った項目

項目	見直し前	見直し後	比較
施設利用率	48.9%	49.6%	0.7%
漏水率	7.0%	10.2%	3.2%
有効率	93.0%	89.8%	▲3.2%
管路更新率	1.40%	1.00%	▲0.40%
配水池の耐震化率	100.0%	90.4%	▲9.6%
管路の耐震化率	29.9%	27.3%	▲2.6%
基幹管路の耐震化率	47.3%	48.4%	1.1%

4 令和11年度以降の財政収支の見通し

財政収支計画の見直しに基づき、令和11年度から20年度までの財政収支予測を行った。

現行の料金体系では令和11年度以降純損失が続き、また、資金不足となるため、給水収益を令和11年度から約24%、令和16年度から約9%増収とするための料金改定が必要となる見込みである。

5 今後の予定

令和5年11月	産業建設委員協議会（協議）
12月	パブリックコメント実施
令和6年1月	上下水道事業審議会
2月	産業建設委員協議会（報告）
3月	策定・公表